

航空事故調査報告書
日本航空株式会社所属
ボーイング式747SR-100型 J A 8 1 4 2
東京国際空港
平成4年1月8日

平成4年5月21日

航空事故調査委員会議決

委員長 竹内和之

委員 吉末幹昌

委員 宮内恒幸

委員 東 昭

委員 東 口 實

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747SR-100型JA8142が、平成4年1月8日、東京国際空港へ着陸して駐機場へ進入中、17時00分ごろ左翼主脚車輪の前に人が飛び込みひかれて死亡した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、平成4年1月8日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官及び調査官1名を指名した。

1.2.2 調査の実施時期

平成4年1月8日～9日

現場調査

2 認定した事実及び事実を認定した理由

数名の目撃者及び調査によれば、事故発生の状況は次のとおりであった。

第71番スポットに駐機中の出発機（ボーイング式767型）に搭乗していた男性乗客が、客室乗務員の制止を振り切って、左側ドア（L2）を開いて機外に飛び下りた。当該乗客は、約200メートルを疾走して、日本航空514便として到着し第18番スポットに進入中のJA8142に左後方から近づき、エンジンの下をくぐり抜けた後、時速4キロメートルくらいでゆっくり進入してくる同機の左翼主脚車輪（左側ウイング・ランディング・ギア）の前に倒れ込むように飛び込みひかれて死亡した。

地上誘導員（マーシャラ）によれば、男性がエンジンの下に入り込むのを発見して直ちに同機に停止の合図を送ったが、間に合わなかったとのことである。

3 原因

本事故は、駐機場へ進入中の航空機の主脚車輪の前に人が飛び込みひかれて死亡したものと認められる。